

平成30年度

事業報告

自 平成30年4月 1日
至 平成31年3月31日

公益社団法人京都染織文化協会

はじめに

京都染織文化協会は、染織祭衣装と全国染織産地合同制作布地という文化的価値のある染織資料を所蔵し、日本の染織文化、染織技術の啓発と継承を目的として様々な公益事業に取り組んでおりますことはご高承の通りと存じます。

当協会では劣化が進む染織祭衣装の中から、特に文化価値の高い辻が花小袖（室町時代 12 号）、慶長小袖（桃山時代 6 号）の復元衣装（レプリカ）を制作する取り組みを昨年度から始め、今年度からは芸術文化振興基金助成金を受けて進めてまいりましたが、開始から 2 年、ようやく辻が花小袖は 2019 年 5 月に完成を迎えることになりました。この小袖は現在も制作中の慶長小袖と合わせて多くの方々に見ていただく機会を今後検討してまいり所存でございます。

また当協会は 2019 年 1 月 15 日、京都産業会館跡地に建設された京都経済センター 6 階に事務所並びに染織収蔵庫を移転致しました。3 月 16 日グランドオープンの同センターこけら落とし・織商創立 50 周年展覧会「The KIMONO Styled&Restyled—ファッションとしてのきもの 1300 年—」では共催団体として染織祭衣装 80 点並びに道具・小物 123 点を出品し、国内外で活躍するキュレーター深井晃子氏の監修により、当時のスタイリングを再現してきもの魅力を多くの人々に啓発しました。

会員事業では京都ブレス事業において新たな商品開発の基盤となるシルクオパール糸の開発に取り組みました。今後は糸の完全製造の実現、製品への活用を目指してまいります。

このように当協会では失われつつある染織技術と文化を一般社会に伝えながら、業界としてより良い方向へ発展していくことを期待するため公益事業・会員事業両面からのアプローチを行い、関係団体、美術館等とも連携をとりながら後記の通り事業を推し進めてまいりました。

今後も引き続き会員各位のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年度 事業報告

1. 会員の加入及び退会

	期首	加入	退会	期末
会員数	43	0	0	43

加入商社：なし

退会商社：なし

2. 会務

■第70期通常総会

平成30年 5月25日	京都ブライトン ホテル	1. 平成29年度事業報告承認の件 2. 平成29年度決算報告承認の件 3. 平成30年度事業計画(案)承認の件 4. 平成30年度収支予算(案)承認の件 5. その他
----------------	----------------	--

■理事会

平成30年 4月19日	丸池藤井ビル	1. 平成29年度事業報告の件 2. 平成29年度収支決算報告の件 3. その他
----------------	--------	--

9月4日	書面決議	1. KPA 京都プリント振興協会主催『メイキング・ワークショップ2019』に対する当協会の共催名義使用許可並びに助成金(50万円)の交付承認について
------	------	---

平成31年 3月7日	からすま京都ホテル	1. 2019年度事業計画(案)の件 2. 2019年度収支予算(案)の件 3. 代表・業務執行理事の職務執行報告 4. 事務所移転に伴う所在地変更の件 5. 定款変更の件 6. 役員改選の件 7. 第71期通常総会の件 8. 事務局体制の件 9. 京都・新庄亀綾織お披露目会開催に伴う当協会の共催名義並びに助成金申請の件
---------------	-----------	---

3. 実施事業

■公益事業

(1) 染織文化資源の保全と啓発事業

当協会が基本財産に位置付ける「染織祭衣装」と「全国染織産地合同制作布地」を保全するとともに、これら所蔵資料にみる染織技術の公開や資料そのものの一般公開により一般社会に伝える知識普及啓発を目的とし、下記事業に取り組んだ。

* 「染織祭」の詳細調査並びに公開

当事業は、昭和6年～26年に挙行された染織祭について北野裕子氏（龍谷大学社会科学研究所客員研究員）に調査を依頼し、現存する史料や文献、ヒアリングなどから当時の社会・経済背景、染織祭挙行の経緯、衣装制作の詳細を明らかにすることで、いまだ認知の薄い染織祭と復元女性時代衣装の存在を一般に広く知ってもらい、染織文化・染織技術を継承する目的で取り組んでおり、今年度は次の通り調査を行った。

<今年度調査先>

- ・文献調査—龍谷大学京都産業学センター
- ・写真調査—(株)松栄堂
- ・音源調査（小町踊り）—祇園東お茶屋組合

<調査成果の公開>

- ・奈良県立万葉文化館主催「万葉の装い」展において、4/22北野氏講演による染織祭に関するセミナーを開催した。
- ・8/21・9/4の2回に亘り京都新聞で特集された「絵はがきで読み解く帝国の軌跡—染織祭—」において協力を行った。
- ・北野氏執筆による論文「京都・染織祭の創設と展開—昭和恐慌・大衆消費社会・産業観光振興の交点」を京都大学人文科学研究所発刊『人文学報』にて発表した。
- ・調査により明らかになった内容は当協会ウェブサイト並びにweb上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』に追加掲載して一般社会に啓発した。

* 染織祭関係史料の公開

当協会が保管する染織祭関係史料データをウェブサイト上で公開した。

<今年度公開史料>

染織祭記録（昭和6年～20年）とその概要 102ページ

* 染織祭道具類等の画像撮影とデジタルデータ保存

資料活用の利便性を図るため染織祭衣装に附属する装飾品と道具類を撮影してデータ保存した。

<装飾品並びに道具類>合計 154 件

上古時代 11 件 (頸玉、手玉等)	奈良時代 16 件 (翳形団扇、花鈿等)
平安時代 10 件 (扇子、綾藺笠等)	鎌倉時代 23 件 (市女笠、御守袋等)
室町時代 14 件 (扇子、鮎桶等)	桃山時代 11 件 (扇、守り刀等)
江戸時代前期 14 件 (団扇太鼓、簪等)	江戸時代後期 55 件 (筭、守り刀等)

<撮影依頼先>

(有) 尚永堂 (京都市東山区)

* 染織祭衣装・道具カタログの制作

衣装貸付を円滑に行うため染織祭の概要や衣装・道具の一覧を載せたカタログを制作した。

(フルカラー 100 部制作)

* 染織技術アーカイブの作成に伴う資料調査と公開

当事業は所蔵資料に使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容をウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏めて公開する目的で行っており、今年度は次の通り公開した。

※染織祭衣装は平成 29 年度をもってすべて公開済。

(新規公開内容)

「全国染織産地合同制作布地」 / 2000 年春・夏物向布地 5 点

公開技術 「織 る」……クラッシュ、クレープ、フクレ織

* 染織祭衣装の補修・修繕並びにレプリカ制作

■ 補修・修繕

当協会が設定する「傷みの 5 段階評価」に基づき、前年度に引き続き次の通り補修を行った。(継続事業)

<対象衣装>

鎌倉時代 1・2・4・9 号「小袖」

〃 3・2・12 号「桂」

〃 8 号「被衣」

江戸時代後期 7 号「振袖」

<依頼先>

松下装束店 (京都市中京区)

京繡すぎした (京都市北区) ※京都刺繍協同組合

■ レプリカ制作

衣装の劣化に伴う将来の備えとして、また職人による技術復興・継承の機会として複製の制作を行った。※平成 30 年度芸術文化振興基金助成金対象事業

<対象衣装>

- ①室町時代 12 号「石畳取草花文様小袖」(辻が花小袖)
- ②安土桃山時代 6 号「垣に桜紫陽花文様小袖」(慶長小袖)

<協力先>

京鹿の子絞振興協同組合
京都刺繍協同組合

<今年度作業>

- ①かちん描き下絵、型制作→2019 年 5 月末完成
- ②絞括、染色

*** 所蔵資料貸付協力**

(染織祭衣装)

◎衣装貸付協力

- ・奈良県立万葉文化館主催「万葉の装い—額田王から淀殿、そして今へ—」
会 期 3 月 17 日 (土) ~5 月 6 日 (日) 10:00~17:30 (入館 17:00)
会 場 奈良県立万葉文化館日本画展示室 (奈良県高市郡明日香村飛鳥 10)
貸 付 上古~江戸時代末期衣装並びに道具、資料 合計 45 点
入場者 3,204 名
- ・「有職御人形司 十二世 伊東久重の世界」
会期及 9 月 12 日 (水) ~9 月 24 日 (月) 京都高島屋 7F グランドホール
び会場 平成 31 年 2 月 16 日 (土) ~2 月 25 日 (月) 日本橋三越 8F ホール
貸 付 桃山時代衣装並びに道具 合計 3 領
- ・「クレハトリ・アヤハトリ—池田に伝わる機織りの伝承—」
会 期 10 月 12 日 (金) ~12 月 2 日 (日) 10:00~18:00
会 場 池田市歴史民俗資料館
貸 付 上古時代衣装 合計 2 領

◎画像提供協力

- ①「戦争と銃後のくらし展・しもぎょう」展への画像提供並びに転載
会 期 6 月 16 日 (土) ~17 日 (日)
会 場 ひと・まち交流館京都 (京都市下京区)
提供画像 染織祭記録史料
使用目的 戦争の影響をうけた事例としての染織祭説明
- ②(株)学研プラス「学研まんが NEW 日本の伝記 11 巻『淀君』」への画像提供

発売日 8月21日(火)

提供画像 桃山時代衣装並びに道具 2点

使用目的 桃山時代の女性の衣装例としての画像使用

③論文掲載による画像提供

依頼者 牧田久美氏(京都市立芸術大学芸術資源研究センター客員研究員)

論文 「日本のテキスタイルプリントデザイン黎明期の諸問題—GHQ のデザイン育成を中心に—」(平成30年秋公開)

提供画像 第1回京都染織見本市

使用目的 実例紹介

④TBS テレビ「ビビット」への画像提供

放送日 10月25日(木)

提供画像 室町時代・江戸時代初期衣装 3点

使用目的 辻が花職人・久保田一竹氏を紹介する中での資料画像

⑤京都商工会議所「明治150年京商のキセキ展」への画像提供

会期 12月12日(水)～15日(土)

会場 京都商工会議所

提供画像 染織祭行列 6点

使用目的 京都四大祭・染織祭の紹介

⑥下京区役所主催「下京区140周年記念パネル展『明治・大正・昭和・平成』」

会期 平成31年3月6日(水)～26日(火)

会場 高島屋京都店1F玄関前

提供画像 染織祭行列 3点

使用目的 京都四大祭・染織祭の紹介

⑦SBクリエイティブ(株)「これだけは知っておきたい日本の伝統文化(仮)」への画像提供

発売日 2019年6月5日(水)

提供画像 染織技術アーカイブより4点(緋、紬、鹿の子絞り、友禅染)

使用目的 染織技術の例としての画像使用

*** その他**

下記の通り資料の寄贈を受けた。

資料 白木屋「歴代衣裳展」解説ちらし

内容 昭和8年、大火災後リニューアルオープンした白木屋の柿落とし事業として開催された染織祭衣装による「歴代衣裳展」にて配布されたちらし 1枚

寄 贈 者 藤井久美子氏

(2) 染織技術等継承事業

日本の染織技術を次代に継承していくために、染織に馴染みの薄い人たちにあらゆる方法でもって伝えることで認知と理解を深め、将来携わる人々を増やす目的で次の事業に取り組んだ。

*** 子ども向け染織技術啓発冊子の配布**

きものをより身近な衣料として受け止めてもらうと共に、きものには様々な技術が使われていることをわかりやすく伝え染織技術の一端を知ってもらうことを目的に小冊子を制作し、子どもが初めてきものを着るシーンである十三まいり、七五三詣りに於いて次の通り配布した。

<配布先>

- | | | |
|--------|-------|--|
| ◎十三まいり | 日 時 | 4月7日(土) |
| | 配布場所 | ご清遊の宿らんざん(嵐山) |
| | 配 布 先 | 京都織物卸商業組合(以下織商)主催の十三まいりきもの着付希望者のうち32名に配布 |
| ◎七五三詣り | 日 時 | 11月10日(土) |
| | 配布場所 | 平安神宮 |
| | 配 布 先 | 織商主催の七五三詣り参詣者139名に配布 |

*** 染織文化セミナーの開催**

◎「明治150年 近代日本を支えた絹産業、そして未来へ」

- | | |
|-------|---|
| 日 時 | 10月4日(木) 14:00~16:00 |
| 会 場 | からすま京都ホテル2階 双舞の間 |
| 講 師 | 今井 幹夫 氏(富岡製糸場名誉顧問・富岡製糸場総合研究センター所長) |
| 内 容 | 明治時代、製糸場の開業により世界一の生糸輸出国となった日本の絹産業を学び、染織文化の啓発をはかった。 |
| 受 講 料 | 無 料 |
| 広 報 | (会員・関係団体・美術館等)当協会より案内送付
(一般)9/15 京都新聞夕刊に広告掲載、当協会ウェブサイト、フェイスブックで告知。 |

受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 42名

◎「モードのジャポニスム ―西欧を魅了するきもの― 」

日 時 平成 31 年 3 月 7 日 (木) 14:00~16:00
会 場 からすま京都ホテル 2 階 双舞の間
講 師 深井 晃子 氏 ((公財) 京都服飾文化研究財団理事・名誉キュレーター)
内 容 江戸時代以前より貿易を通して海外に渡ったきもの。洋装文化にきものが
与えた影響を学び、染織文化の啓発をはかった。
受 講 料 無 料
広 報 (会員・関係団体・美術館等) 当協会より案内送付
(一般) 2/20 京都新聞朝刊に広告掲載、当協会ウェブサイト、フェイスブ
ックで告知。

受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 67 名

* インターネットミニ染織講座の開催

当協会ウェブサイト内において、衣装レプリカ制作工程を撮影した動画を制作し、インターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードし相互リンクして当協会ウェブサイトの閲覧を促した。

◎衣装複製制作プロジェクトシリーズ

- ①「室町時代 12 号 染分け工程」(更新日: 10 月 7 日)
- ②「室町時代 12 号 染色工程」(更新日: 10 月 24 日)
- ③「桃山時代 6 号 絞括工程」(更新日: 12 月 21 日)
- ④「室町時代 12 号 かちん描き下絵工程」(更新日: 平成 31 年 3 月 13 日)
- ⑤「桃山時代 6 号 桶絞り工程」(更新日: 平成 31 年 3 月 29 日)

(3) 染織技術等継承に関わる助成事業

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、当協会助成規定に基づき次の事業への助成を行った。

◎KPA 京都プリント振興協会主催「メイキング・ワークショップ 2019」への共催

会 期 10 月 12 日 (金) ~14 日 (日) 10:00~18:00※最終日 17:00
会 場 京都府京都文化博物館別館 (中京区三条高倉)
制作テーマ 「PASSION」
出 展 者 17 社 31 組
内 容 染色業に携わる職人の創造力、技術力の向上を図るため、制作の機会、発表の場を提供した。今回は「PASSION」をテーマに装飾性の高いプリントを訴求し、色・プリント技術での意匠表現に挑戦したプリント服地の提案を

行った。当協会からは共催名義使用許可、助成金 50 万円の交付並びに京都染織文化協会理事長賞の下付を行った。

入場者数 1,595 名

◎織商創立 50 周年記念「The KIMONO Styled and Restyled—ファッションとしてのきもの 1300 年—」への共催

会 期 平成 31 年 3 月 16 日（土）～29 日（金）10:00～18:00

会 場 京都経済センター2F 京都産業会館ホール

出 品 奈良～江戸時代後期衣装並びに道具類 合計 203 点

内 容 京都織物卸商業組合創立 50 周年、京都経済センターこけらおとし事業として開催。国内外で活躍するキュレーター・深井晃子氏監修により日本女性の衣服の変遷をファッションという視点からスタイリング展開した。当協会からは共催名義使用許可並びに衣装等の無料貸付を行った。

入場者数 4,246 名

■会員事業

* 会員のための啓発事業

◎展覧会招待（年 2 回）

<招待展覧会>

- ・「生誕 150 年横山大観展」（6/8～7/22 京都国立近代美術館）
- ・「明治工芸から現代アートへ」（1/26～4/14 あべのハルカス美術館）

* 京都プレス事業

当事業は、染織品の発展と更なる需要を促すために、伝統的な染織技術と先端技術を融合させた新しい素材の開発と加工に取り組み、市場での反応を調査した後、その技術と情報を会員商社にフィードバックする目的で行っている。今年度は和装素材の新しい提案としてシルクオパール糸の開発を、蚕糸科学研究所、京都市産業技術研究所、京都府織物・機械金属振興センターの協力のもと、引き続き取り組んだ。（継続事業）

* 会員助成事業

歴史ある染織技術を継承し発展することを目的に、会員の企業活動に対する助成金拠出について助成規定に基づき募集を行ったが、本年の応募は無かった。